



「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第2回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	東お多福山草原保全・再生研究会		
事 業 名 称	東お多福山の生物多様性豊かなススキ草原の保全・再生と活用	助成額	50万円
申請事業の概要	六甲山系にある東お多福山草原において、年7回のネザサの刈り取り、年2回の植生モニタリング調査、毎月1回の観察会を行う。		
申請事業の目的	全国的に草原の面積が減少し、草原生の生物が危機にさらされている。東お多福山草原も森林化によって面積が減少しているほか、ネザサの繁茂によってススキ草原からネザサ草原にかわり他の草原生の植物が減少している。そのためススキ草原の復活を目指すと共に、キキョウ、オミナエシ、スズサイコ、シラヤマギクなどの草原生の植物を保全するため、ネザサの刈り取りを行っている。また、これらの重要性を理解してもらうために観察会を行い一般の方にもアピールしている。		
関連するSDGs目標	この活動はSDGSの目標15「陸の豊かさを守ろう」に該当し、ターゲット15.1、15.4、および生物多様性30by30に寄与できる。さらに、本会は各種団体が会員であること、兵庫県立人と自然の博物館、兵庫県神戸県民センター、環境省近畿地方環境事務所、神戸市建設局公園部森林整備事務所などの援助を受けていることで目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」ターゲット17.17に該当する。	 	

2. 助成事業の実績・成果等について

<p>2020年10月1日～2023年9月30日の活動実績については以下の通りである。</p> <p>ササ刈り作業 6回 植生モニタリング 2回 観察会 9回 東お多福山親子ハイキング（兵庫県県民センターと共催） 3回 定例会 9回 総会 1回 神戸学院大学附属中学校校外学習指導 こうべ森の文化祭出展 全国草原の里100選認定式出席 上記参加延べ人数は641名であった。</p> <p>その内、ササ刈りおよび植生モニタリング調査では延べ149名の参加者があり、観察会では126名であった。さらに、企業からゴールドウィン9名、伊藤園7名の参加があった。</p> <p>活動の詳細については別紙に記載している。</p> <p>年間2haのササ刈りを予定しているが、2021年度はコロナ禍で目標を達成できなかったが、2022年度はほぼ達成できた。</p> <p>2020年および2021年はコロナのため活動が十分できなかったため、ネザサが増加し、草原植物の種数も減ったが、2022年には活動が順調に行われたので、ネザサの量は減り、草原生植物の種数も増えてきた。また、ススキも僅かながら増加してきている。詳しくは報告書を参照のこと。</p>
--

実際の活動の他に、2022年度の活動報告書、活動参加証、リーフレットを作成した。活動参加証、リーフレットについては当該補助金を利用した。



図 1 神戸学院大学附属中学校校外学習 2022年11月10日



図 2 ササの刈り取り作業 2022年12月10日



図 3 ササの刈り取り作業 2023年4月5日



図 4 春の植生モニタリング調査 2023年5月17日



図 5 刈り取り機によるササの刈り取り 2023年9月27日



図 6 手刈りによるササ刈り 2023年9月27日

3. 課題分析や今後の発展性

本会は、8団体の会員で構成されており、今のところ草原の復活や保全作業の作業に関しては人員を確保できており、支障はない。しかし、各団体の指導者および会員が高齢化しており、世代交代が問題である。本活動は継続していかなければ草原は維持できないので、後継者を育成する必要がある。そのためには本活動を広く一般に知ってもらい、活動の輪を広げていく必要があり、HP以外にリーフレットを活動中を通りがかった登山者に配布している。また、参加者には参加証を配り、参加意欲をあげてもらっている。

昨年からはゴールドウィンや伊藤園のような企業からの参加もあり、今後も積極的に参加してもらえよう進めていきたい。

2022年にモンリオールで開催された第15回生物多様性締約国会議（COP15）が開催され、ネイチャーポジティブの考え方が取り入れられ、2030年までに生物多様性の低下を止め回復させることが決議された。生物多様性の保全はその地域でしかできず、本会の活動も寄与できると考える。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

2021年まではコロナ禍で十分な活動が出来なかったが、2022年になってやっと落ち着き、活動が順調に行われるようになり、ホッとしています。これも会員の協力があって、遂行できているものと思います。ただ、会員の高齢化でリタイアする方もでてきているので、今後の運営体制の見直しも必要になるかもしれません。長く続けていけるように頑張っていきたいと思います。